

## 東海市総合福祉計画推進協議会会議録

- 1 会議名 令和6年度第2回東海市総合福祉計画推進協議会
- 2 開催日時 令和7年3月6日（木）午後2時～午後3時40分
- 3 開催場所 東海市役所302会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 原田正樹、蟹江幹雄、森山慶郷、相澤隆雄、吉井覚、菊池孝敏、加来公一郎、山田孝介、今井友乃、古谷仁彦、小嶋真一郎、佐野宏樹、高井智広、田中潤也、中根恵美子、栗野剛宜、香田和子
  - (2) 事務局 市民福祉部長、健康福祉監、市民福祉部次長、こども課長、高齢者支援課長、健康推進課統括主幹、社会福祉課長、同統括主任（3名）、同主任（2名）、社会福祉協議会事務局長、同次長
- 5 欠席者 2人（杉山勝俊、田中薫）
- 6 公開の可否 公開
- 7 傍聴人の数 0人
- 8 会議の内容

### (1) 挨拶（部長）

今年度は、第4次東海市総合福祉計画がスタートした年でもあり、4つのプロジェクトでは、関係者と何度も話し合いを重ね、模索しながら包括的な支援体制の構築に向けて取り組んでいるところである。先月行われた100人会議では、総勢122名の参加者が集まり、輪島市職員の講演の後、活発な意見交換が行われた。少しずつ本市の地域づくりが進んでいると感じた。

本日は、委員の皆様には率直な意見をいただき、今後も本市の福祉行政にお力添えいただきたい。

### (2) 報告事項

ア「各協議会等の進捗について」資料1-1（参考：資料1-2）

社会福祉課長、こども課長、高齢者支援課長、社会福祉協議会局長より説明

イ「コミュニティソーシャルワーカー等の活動報告について」資料2  
社会福祉協議会事務局次長より説明

ウ「関連計画の策定状況について」資料3-1、3-2、3-3  
こども課長、健康推進課統括主幹、社会福祉課長より説明

主な質疑等は以下のとおり

古谷委員 資料内に出てくる「へいしゅうくんネットワーク」について、今どのような状況で活用されているのか教えてほしい。

事務局 現在は、支援者同士が対象者の支援情報を共有するツールとして導入し、日常の業務の中でスムーズに支援するために活用している。

例えば、在宅で医療的ケアを受けられている患者さんがいた場合、基本的には介護職や医療職、市の福祉関係者がチームで見守りを行っており、今日の患者さんの様子はどのような状態であるかという情報を、「へいしゅうくんネットワーク」を使って共有し、対応に当たっている。

1月6日現在、登録者数は1,691人、支援者登録者数は598人となっている。

原田会長 現在は、このシステムを災害時にも使えるように検討されていると聞いている。

山田委員 資料2中の「重層的支援体制推進事業」は資料3-3「重層的支援体制整備事業実施計画」中のどの事業と関連してくるのか。

事務局 「重層的支援体制推進事業」は東海市社会福祉協議会への委託名であり、内容としては、7ページの参加支援事業と8ページの生活支援体制整備事業である。

山田委員 意見交換会の内容が、地域によって異なるが、どのような目的でやられているのか。

事務局 担当の生活支援コーディネーターが地域の人から聞き取りを行い、そこから見えてきた課題をテーマに意見交換を行っているため、

地域によって内容が異なっている。

山田委員 参加者の属性が異なるのは、内容によって変えているのか。地域住民が参加していない地域があるのはなぜか。

事務局 関係機関から相談を受けてテーマ設定をしている地域もあり、そのような地域では、まず関係機関で集まって情報共有をして進めていく場合もある。

山田委員 目的に合わせて適切なメンバーで話し合いを進めていくと良いと思う。

事務局 検討させていただく。

原田会長 コミュニティソーシャルワーカーの説明の中で、来年度1人増加するとのことだが、将来的には何人ぐらいまで増やす予定があるのか。

事務局 コミュニティソーシャルワーカーを置く目的からすると、理想は全12コミュニティ地区に配置することだが、誰でもいいというものではないため、人材育成も含めて時間がかかると考えている。

山田委員 東海市は総合相談窓口ではなく、各分野の窓口同士がつながる仕組みを構築しようとしている中で、それぞれの分野が感じている課題等を定期的に聞いてもらえる機会を作っていただきたい。そうすることで、各相談窓口同士がより効果的につながるのではないか。

事務局 ご提案いただいたような意見を頂戴する機会を設け、フィードバックできる仕組みを作れるように努める。

高井委員 こども計画の中で、子ども若者が安心して過ごせる居場所づくりを推進する、とあるが具体的にどのように考えているのか。また、子どもの意見をどのように取り入れていくのか教えて欲しい。

事務局 例えば、家でも学校でもない第3の居場所や、普段体を動かせる場所等を整備していきたいと考えている。

最近では、国も子どもの意見を取り入れて施策を考えるようにと言っており、本市においてもオンラインで意見を集めて、検討結果をフィードバックできる仕組みを作っていこうと考えている。

高井委員 個人的には、意見を言った子どもたちも一緒に話し合う場がある

といいな、と思っている。

事務局 検討させていただく。

森山委員 重層的支援についてももう少し分かりやすく説明して欲しい。

事務局 本市では、地域を第1層から第4層に分けて、様々な単位で支援体制を整えているところである。重層的支援とは、支援が必要な方をどこかの層で発見し、支援に繋げていく仕組みのことである。

原田会長 補足をすると、重層的支援とは、地域を重層的に厚くすること以外にも、児童福祉、障がい福祉、高齢者福祉といった縦割りの制度のはざまを作らないように、様々な制度やサービスを重ね合わせながら支援をしていく側面もある。一つの家族の中で複合的な問題があった場合も重層的に支援ができる支援体制を東海市でも作ろうとしている。

栗野委員 地域別意見交換が各地区で開催されているとのことだが、実際にこの課題を解決するために、具体的にどうしたらいいか、という所まで話を進めないと意味がないと思う。

事務局 地域によって開催頻度は異なるが、話し合いを重ねて、実際に動いてみてどうだったか、という評価を繰り返し行っていく。

原田会長 PDCAを回していくことはとても大切なことである。来年の報告時にはいくつか課題解決ができているよう、引き続き計画を推進して行ってほしい。

今井委員 働いている女性が育休を取り、その間に第2子が生まれた場合、東海市では上の子どもを引き続き預けることができるのか。

事務局 上のお子さんが2歳までは引き続き預けることができるが、3歳以上のお子さんは退園していただいている。

今井委員 その辺りの規定が市町によって異なっていて、個人的には子どもを預けたい人が誰もが預けられる環境を整えて欲しいと考える。東海市は医療制度も進んでいると聞いているので、ぜひ検討していただきたい。

事務局 検討させていただく。

原田会長 介護保険事業計画と健康増進計画の関係性はどのようになって

いるのか。

事務局 本市の場合、介護保険事業計画は4市町で構成している広域連合で策定し、健康増進計画は市で策定する。関係性については、明記はしていないもの、他の計画同様、連携を図りながら進めていく。

### (3) 協議事項

ア「各プロジェクトの進捗状況及び次年度の取り組みについて」資料4  
社会福祉課長より説明

栗野委員 災害時支援体制プロジェクトについて、以前は民生委員として担当地域の要配慮者の確認を定期的に行っていたが、体制が変わって地域で要配慮者の把握が難しくなっている。発災時にどのような役割分担で安否確認をしていくのか。

事務局 安否確認に限らず、発災時の対応は民生委員の皆さんや行政職員のみで解決できるものではないため、プロジェクトでは先ほどの「へいしゅうくんネットワーク」を使った安否確認ができないか等、多方面から要支援者にどのような支援ができるのかについて、検討を始めたところである。

栗野委員 プロジェクトで話し合っている内容が、実際に役立つ形になるようにしっかり進めていただきたい。

事務局 承知した。

香田委員 要支援者名簿は町内会自治会長にも渡してあるのか。

事務局 配布している。

香田委員 会長によって認識の違いがあるため、趣旨や取り扱いについて周知徹底をお願いしたい。

事務局 承知した。

山田委員 孤独孤立対策プロジェクトについて、入口支援については検討されていると感じるが、就労支援を含めた出口支援についても検討していただきたい。

原田委員 若者の定義は、法律上は39歳までが若者とされているため、20代、30代は就労が一つの大きな目標となってくる。10代に対

する施策を考える時には、評価分析にもあるように、教育と福祉の連携が必要となってくる。事務局の方でターゲット層について具体的な考えがあれば補足をお願いしたい。

事務局 孤独孤立がいつおきるのか、どのようなタイミングで起きるのかについて議論したところ、どの年代でも起こり得るものだと共通認識した上で、まず義務教育中の子どもにターゲットを絞り、予防的な視点から進めているところである。

出口支援の部分については、別のところで検討を始めている。総合福祉計画が始まってまだ1年目であるため、今後議論を進めていく中で、中間層やそれ以外の年代に関しても広く検討していきたいと考えている。

山田委員 孤独孤立プロジェクトでは、地域の声を拾う時に、声にならない声をきちんと拾い上げていただき、参加支援や地域づくりも射程に入れつつ体制整備を進めていただきたい。

事務局 承知した。

今井委員 日々の業務の中で、もう少し早く誰かに助けてもらえなかったのかな、と思う方がたくさんいる。早期発見ができると何とかなることもある。先程の予防的な視点からもぜひ福祉と教育が連携して孤独孤立対策プロジェクトを進めていただきたい。

事務局 承知した。

古谷委員 地域づくりプロジェクトについて、支援が必要な方への施策も大切だと思うが、地域の中で子ども若者が様々な体験ができて活躍できる居場所や地域づくりを進めていただきたい。

事務局 検討していく。

香田委員 相談支援体制プロジェクトについて、出張相談会に参加した方が、大変丁寧に対応してくれたと感謝していた。どこに相談に行けばいいか悩んでいた方も、気軽に参加できてよかったと話していた。

#### (4) その他

ア 次年度の開催予定

事務局 来年度の第1回会議は令和7年8月8日(金)午後2時から東海市芸術劇場リハーサル室、第2回会議は令和8年3月9日(月)午後2時から市役所302会議室で予定している。

同日とも開催日が近づいてきたら、開催通知を送付させていただきます。

(5) 閉会